

平成25年度第2回市民活動団体支援制度審査会

開催日時 平成25年5月14日(火) 午前9時から

開催場所 市役所402会議室

出席者

(委員) 中川委員、仲川委員、谷野委員、宮西委員、上田委員、中田委員

(事務局) 杉浦市民活動推進課長、八重市民活動推進課課長補佐、坂谷市民活動推進センター所長、金子市民活動推進係長、塚口市民活動推進センター主査

欠席者 なし

案件1 生駒市市民活動団体支援制度登録申請状況について

今年度のマイサポ団体につきましては、4月1日から26日を受付期間とし、30団体から申請がありました。内訳ですが、今年度の新規団体が6団体、昨年度に引き続きの団体が22団体、一昨年から再度申請の団体が2団体です。分野別に見ると、保健・医療・福祉の分野が6団体、まちづくりの分野が3団体、文化・芸術・スポーツの分野が6団体、環境保全活動の分野が4団体、国際協力の分野が1団体、子どもの健全育成の分野が10団体となっています。

事業に要する経費は、総合計2,130万9,362円で、そのうち、支援対象となる経費の合計額が1,842万7,762円となり、30団体分の支援金希望額の合計が612万1,251円となっております。昨年と比較すると、昨年は29団体の提案があり、審査会後に2団体の辞退があり、団体登録となったのが27団体でしたので、申請の時点では昨年度より1団体の増加、支援金の希望額としては、34万6,136円の増加となっています。

案件2 生駒市市民活動団体支援制度登録申請に係る審査について

団体ごとに各委員から意見のあった部分につき協議。

団体番号1 いこままプラス

【中川会長】 谷野委員が、入場料はどうしているのか、上田委員が、昨年体験で養成されたママさんの活用はどうなっているのかという疑問をお持ちです。

【事務局】 入場料は無料です。広く自分たちのしていることを市民の方に知っていただきたいということもあり、有料にすると敷居が高くなるという思いがあるようです。その分、団体の会費で賄っているということです。昨年度の提案が「いこまま親子コンサート」で、この親子コンサートと「いこままプラスコンサート」を隔年で実施しています。「いこまま親子コンサート」は「親子が楽しめる」をテーマとした楽曲の構成となっており、今回の「いこままプラスコンサート」は、吹奏楽として適した楽曲を選び、本格的なコンサートにすることです。

昨年、体験で養成されたママさんの活用についてですが、団体との関わりは継続してあるようです。特にこのコンサートに出るということではないようです。今回は指揮者体験ということで、本格的な吹奏楽の楽曲に対して指揮者として、市民の方が体験参加するコーナーを設けています。

【中川会長】 ホールの定員は何人で、過去はどのぐらい入場者がいたのでしょうか。

【事務局】 今回の会場の定員は900人。昨年度は、200人定員に140人の来場です。

【中川会長】 今回、700人として、500円の入場料であれば、35万円、100円では7万円

入ります。

【事務局】 昨年度、入場料の話はさせていただきましたが、団体として無料でやりたいということでした。

【中川会長】 その論議はどのように整理しますかね。市の税金をもらって無料であるという論理というのはいつまでも通るわけではないです。全部の団体に対して言えることですが、最終的に、どういふふうに自立されるのかということにつながりますよね。

【仲川副会長】 やはり税金を投入するので、有効性に一番こだわっていく必要があると思います。

団体番号3 鹿ノ台納涼祭実行委員会（団体番号13 高山盆祭り実行委員会）

【中川会長】 この団体は今年度2回目の申請です。これも同じで、市の補助金なくなったらどうするのかということですか。

【谷野委員】 事業を絞るとコメントさせていただきましたが、事業を絞るとするのは、祭り全体でなく、その祭りの中でこういうことをしますというのであればいいのかと思いました。

【上田委員】 自治会の祭りを全部補助するのかどうか、手を挙げれば、すべて対象となるということになりますので、谷野委員がおっしゃるように、何か特色を持たせた先駆的なところは対象とするのがいいのかと思います。昨年度は、美鹿の台と一緒にやるという新たな要素があったのでいいかと思いましたが、ずっと同じような形でやっていくものを対象とするのはどうかという気はします。

【仲川副会長】 地域限定的なものでも公益性もあるというふうにとらえることができるので、判断するのは難しいですが、地域のお祭りに満額出し続けるのかという点で、有効性に疑問があると思ったのですが、それをもう少し違う活動にしていっての方がいいのか、それとも、谷野委員がおっしゃるように特色があれば出し続けるのか。

【事務局】 継続申請の団体には昨年度からの新規的な取り組みを確認させていただいており、この団体については、昨年度は美鹿の台の方が実行委員会には入っていませんでしたが、今年度から実行委員会に加わり、一緒に運営に携わっていると聞いています。

【中川会長】 昨年度は、地域で団結して祭りをするというのはいいことではないかという入り口だったと思いますが、それが3年間保証されていますみたいな受けとめ方をされています。それをどういふふうにメッセージを伝えたらいいのでしょうか。

【事務局】 今回の制度では、それを規制するものはないです。

【中川会長】 立ち上がりに対しては応援しましょうと。しかし、それをもって3年間の既得権を認めているわけではないというメッセージは伝えなければならないと思います。将来的に地域の自立、事業自立に対する展望を示してほしいということの条件になってきます。

【仲川副会長】 **団体番号13 高山盆まつり**は、支援制度がなくてもできそうなぐらい大きいですね、今まではできていて、この制度があったから、利用したという感じですね。

【中川会長】 **高山盆まつり**も問題は同じことです。上田委員がおっしゃるように、ほかの地域でも「そういう事例があるのであればやろう」と言って手を挙げてきたとき、初回は割と甘い目に見ますというルールは成り立つと思うけど、2回目、3回目に関しては、その設計図を示してくださいということにならざるを得ないと思います。

【中田委員】 過去に自治会が行う祭りへの補助金がありました。補助金の見直しで廃止した経緯がありましたが、自治会単位で実施するものについては、この制度の対象にはなりません。少し公平性に問題があるような気がします。今年度は仕方ないかもしれませんが、条件つきメッセージを投げかけ、

来年度は制限がかかりますということを発信したほうがいいのかと思います。

【中川会長】 中田委員がおっしゃったように、かつてのお祭りへの補助金と全く性格が違うということ、やはり地域公益活動の自立に向けた設計、構想を示していただきたいというメッセージを伝えてもいいのではないかと思います。高山盆まつりも一緒です。

団体番号4. 生駒市民劇団「シアター生駒」

【宮西委員】 去年は見るだけでなく、舞台を体験するというのもあったと思いますが、今回はそういう記載もなく、金額も高いというのは感じます。入場料が大人1,000円となっておりますが、この団体は他でもこういうことをされていて、他のときは幾らの入場料なのか、この制度で事業実施することによって入場料を1,000円に抑えてできるということであればいいかと思いますが。

【上田委員】 1,000円の入場料を取っておられて、舞台設備で費用もかかっており、補助を得ている割には1,000円の入場料が、高いのか安いのか。

【中川会長】 事業収入55万円ありますが、それだけではとても賄い切れない。演劇はお金がかかりますよね。

【谷野委員】 去年は何人ぐらい来られたかというのと、もし入場の方が少なかったときにこの事業ができるかどうかというのは。

【事務局】 昨年は「夫婦（めおと）レコード」というテーマで2回公演されました。観客数が161と126ということで、合わせて287名です。今回は2日間で、それぞれ午前、午後の公演で、合計4回公演を予定しておられます。子供向けの内容になってますが、子役も募集をしており、その募集に向けて子供向けの演劇ワークショップも無料で実施をされる予定になっています。

台本が違うことが新規性となるのか、目的、団体のミッションは変わらないので、事業の新規性を見るのは非常に難しいと感じました。

【仲川副会長】 子供向けのワークショップをやられるのですね。

【中川会長】 劇をしますということでなく、そういうことをアピールして行って欲しいと思います。

団体番号5 生駒市スカウト連絡協議会

【上田委員】 昨年度は、荒天のため当初予定した事業計画を中止し、一昨年と同じような形でいろんなものを組み入れて実施されました。単発で実施するイベントよりはそちらの方がいいのではないかと考えていましたが、また、今回、去年の内容に戻った形になっています。また同じように荒天対応が必要になるものを出してこられたという感想です。

【事務局】 雨天対応についてですが、昨年度の事業内容を変更せざるを得なかった理由として、当初の予定が、事業規模が非常に大きく、スタッフ数も多く必要であったため、一旦中止してしまうと同じ内容で実施しにくいという要因があったとのことでした。ですので、今回は、事業規模を小さくし、雨天で別の日に実施するとしても、実施可能なスタッフ体制がとれる事業内容にしたという説明でした。また、昨年度、結果的に複数のイベントを構成した内容となったために団体の自己負担額が想定していたよりも大きくなってしまったため、今回は去年の大体半分ぐらいの事業予算での提案となっています。

【中川会長】 ガールスカウト、ボーイスカウト以外の子供にも呼びかけて、一緒に行きましょうということですね。

【事務局】 はい。そういうことです。

団体番号8 生駒市レクリエーション協会

【上田委員】 コンサートを見るだけのレクリエーションというのがピンとこないのですが、自分たちが参加して、体を動かすようなこともされているかと思うのですが、なぜこれを補助事業に持ってこられたのかという気がします。

【事務局】 事業計画書にも書かれてますが、「音楽愛好家やグループに発表の機会を提供」というのは、出演者を公募されるということです。出演者は2人で、1人がプロの方。このプロの方が楽器などについて説明をするコーナーがあり、もう1人が、演奏する方、ハーモニカ、たて笛、コーラスなど、そういう方々を公募で募集をされて実施するということです。

この団体は平成15年に結成をされ、結成時期にはウォーキングや屋外での事業も実施されてたようですが、19年度からは、申請されている午後のミニコンサートを実施しています。

団体番号10 生駒フットボールクラブ

【上田委員】 この大会で勝ち上がった人がその上、上位大会へつながるような取り組みはないのかと思いました。

【谷野委員】 チームに入れない子供たちも、学年選抜、学校選抜とか、グループ、チームを作るような参加の場もあっていいのかなと思います。

【事務局】 そのことは確認をさせていただきましたが、その個人の把握、けがのこと、連絡ということを見ると、いずれかの団体には入ってほしいということでした。

【中川会長】 総当たり戦をした後の、上田委員がおっしゃった、次のステップみたいなものは考えていないのでしょうか。

【事務局】 今回の対象が1、2年生ですが、1、2年生の大会は数的に少ないとのこと。1、2年生でこういう大会経験をした子供たちが3年生となり活躍する。そういう展開はあると思います。

【上田委員】 逆に、1、2年生を対象とした大会がないから、そういうところに手を伸ばしてあげているということですか。

【事務局】 そうです。ゴールやコート大きさも1、2年生のはもっと小さく、専用のものがほしいのですが、そういう機会がなかなかないので、1、2年生に大会の機会を設けますというのが主旨です。

【上田委員】 せっかくその活動を続けているのですから、今は生駒市域ですが、県域に広げていこうとかいうような働きかけを体育協会やサッカー協会などに働きかけなどはされる予定はあるのでしょうか。

【事務局】 生駒市内のチームが主ですが、隣の奈良市、他県からも参加しているということを聞いています。

【宮西委員】 生駒フットボールクラブのような団体がほかにも市内に何種類かあり、そのサッカークラブに所属している1、2年生の大会ですよね。生駒フットボールクラブが大会を主催して、市内のサッカークラブに呼びかけて、1、2年生のチームを作って参加してくださいということでよろしいですか。

【事務局】 そうです。

【仲川副会長】 クラブを越えて横のつながりはないのでしょうか。それと、小さい子の方が出場する機会もないという課題があると。おもしろいかと思います。やっている人から出てくる発想かなと思います。

【中川会長】　　こういうことをやってくれたら割と広がるというはずみにはなりますよね。新しいチームができるきっかけにもなるでしょうし。そういう意見が出ていますということを伝えていただけたらと思います。

団体番号12 生駒市グラウンド・ゴルフ協会

【上田委員】　　会員だけの大会になっては意味がなく、一般参加者も入っていいと思いますが、それももっと増やすようにしていただけたらと思います。

【仲川副委員長】　　高山盆祭り実行委員会などと同じ感覚ですが、これも3回目です。シニアがグラウンドゴルフをするのはいいのですが、次年度も申請があったらどうかということにもなりますが、子供たちはフットボールで、シニアはグラウンドゴルフで、お祭りに近いような感覚でこのお金を使うということでどうかと思いました。でも、健康的になるでしょうし、公益性はありますよね。

【中川会長】　　思うのは、継続性、持続性ということを考えてくださいということです。補助金がなくなったときに、どのようにして自立するのですかということのを常に聞きたい。「この補助金があるから無料でできる」というのは本末転倒の議論になるし、市民からの税金はただではないです

団体番号13 高山盆祭り実行委員会（団体番号3 鹿ノ台納涼祭実行委員会）

【中川会長】　　鹿ノ台納涼祭実行委員会と考え方は一緒です。やっていることは悪くないですが、以後、どうするのかということです。各地域毎で申請されたときに、立ち上がりの初年度は1つのきっかけなのでいいのかと思いますが、2年目、3年目に向けて、補助金がなくなった時にどうするのかと、それがなくなったときのために何を投資するかということ、アドバイスも必要となってくるのではないかと思います。

【事務局】　　地元高山地域の風景のポスターを小学生から募集をして、事業目的の「高山としての地域を愛し、歴史的、文化的、経済的な活性化、愛着を持つ」ということの取り組みをされる予定です。

【中川会長】　　新規性のことばかり言うと支出拡大の要素になります。それよりも、ストック形成ということと考えたら、例えば会場設営のためのテントを買う、音響設備を買うなどのほうがすっきりする気はします。例えばそのテントに「マイサポいこまの支援を受けました」などクレジットを打てばいいのではないのでしょうか。有名人を呼んで、その出演謝礼で消えていくというのはどうかと思います。テント、舞台、櫓の会場設営で140万円かかるのですね。

【事務局】　　吹奏楽の演奏などがあるため、舞台を造られます。

【仲川副会長】　　テントとか櫓は、持ったことがある者としては大変なので、費用はかかりますがレンタルがいいと思います。

【中川会長】　　この団体については、市民自治協議会の流れのモデルになってくださいという意味もがあったと思います。その後に鹿ノ台納涼祭実行委員会が申請してきたから、これもいいのではないかと。ただ、補助金の使い方がマンネリになるというか、補助金がなくなったらできませんという話はやめてくださいという話ですね。

団体番号14 NPOいこま山の子会「いこま山のようちえん」

【中川会長】　　上田委員から、有料で行う、この団体の内覧会的企画ではないかという厳しい御指摘が出ております。

【事務局】 この団体はNPOと名がついてますが、法人格は有してません。年間を通じて、自由保育の実践ということで任意の保育活動をしています。その中で、今回は自由保育についての講演会、子育ての相談会ということで、通常の活動とは違う内容で実施するという事業提案です。

【上田委員】 有料で幼稚園をされていて、この講座が、幼稚園の営業活動につながらないのかというところが非常に気になります。分けているということですが、そこを見学に行かれた方に入園を募るのが最終目的であるのかという気もしますので、その事業をどう分けるのかということかと思いますが、有料でされることにつながったら全くだめということでもないのですが、そこに補助金が充てられていくのは難しいのかと思います。年会費、入会金も要りますし。

【事務局】 人件費ですが、今回の申請では賃金を計上されており、その分と通常の保育で雇用している人とが重ならないようにと伝え、団体からは、通常の支払いが生じている人とは異なる人へのもので、この事業で雇用した人への賃金支払いであるという説明です。

消耗品も非常に多様なものを計上していますので、その一つ一つが、団体の通常の活動用のものではなく、この事業での使用であるということを何度もやりとりを行いながら確認をしました。

【仲川副会長】 この団体の代表からは以前から相談があつて聞いていますが、ドイツの森の幼稚園に参加をされた方々で始められましたが、実動が先の団体です。それで恐らく、皆さんになぜやっているかという趣旨説明とか、賛同者を増やそうとか、そういう講演会が必要と思われ、されるのかと思っていました。

【事務局】 マイサポいこまは事業提案ですので、その事業の中身であるとか、事業に係る収支予算を見ています。しかし、会則などを団体の運営について確認させていただく中で、賃金の支払いが生じているのに任意団体であるということで、源泉徴収義務等について指摘をしております。今現在、まだ法人格は有していませんが、今月ららポートで実施するNPO法人になるための講座の受講を予定しておられて、団体として動き出そうとしていると理解しています。

【中川会長】 支出内訳にテープ起こしというのがありますけど、これは何を記録するのですか。

【事務局】 講演会の内容をテープ起こしを行い、ホームページなどで広く市民に公表したいということでした。委託料に計上されているテープ起こしは業者に委託するもので、一言一句、話し言葉で上がってくるので、それをアルバイトスタッフがホームページに上げられるように校正を行うという作業を賃金で計上しています。

【中川会長】 講演はだれがするのですか。

【事務局】 会の代表です。

【中川会長】 それで講演謝礼がないわけですね。

【事務局】 そういうことです。

団体番号16 遊楽民Plus&Next

【中川会長】 「これは本当に公益活動なのか」と思う部分があり、趣味の集まりを公開するだけと違うのかという気がしました。

【上田委員】 去年までは特定中学校だけで、その特定中学校の支援だけのためではないかということで、昨年、教育委員会とかで何か問題にならないですかというような話をしましたが、今年は勉強会も取り入れられたので、いろいろ考えておられると思いました。

団体番号17番 生駒市学童保育連絡協議会

【谷野委員】 議員懇談会を記載する意味があるのかと思いました。その名前が出なくてもいいのではないかと。

【中川会長】 議員懇談会の費用は計上していますか。

【事務局】 託児の費用だけは計上しています。プログラム構成として、まず、語る集いというのがありまして、それが終わってから、一部の参加者の方と議員の懇談会というのが続けて行われます。去年の実績は、語る集いは104名が参加して、多忙な生活の中で子供との触れ合いを持つ工夫について話し合いをしたということでした。その後、議員懇談会と語る集いを分けて開催しました。課題として、「議員懇談会では生駒市のこれからの考える幅広いテーマを設けたにもかかわらず、共同開催したときと余り変わらない学童の問題に限った内容となった」という昨年度の実績報告が出ています。

【中川会長】 議員懇談会は、厳しく言えば対象経費から外した方がいいのでしょうか。

【事務局】 初年度はそのときのお弁当代・お茶代が出ていましたが、それは全部外し、今回も直接、議員に係る経費というのは一切除外していて、託児費用だけです。

【中川会長】 市民活動団体として議会の議員さんと語り合う、あるいは陳情するというのは別に政治活動とは言えないから許容の範囲で、議会への陳情というのは必要ですね。

【仲川副会長】 日本はロビー活動とか、むしろしなさ過ぎると思います。

団体番号18 M's Sound Factory

【中川会長】 上田委員が、入場無料であるが、入場者を増やす努力をとのことでありますが、これは自分たちの発表の場にとどまるのではないかとということですか。

【上田委員】 無料が必ずしもいいわけではないということも議論が上がってましたが、結局、来場者数がそれほど来ていないということでしょうか。無料だと来てもらえるのか、それとも、入場料を払ってもらい、自分たちの活動の場をアピールする方が、逆に、精通している方々は来るのかなというような気がして、その辺を再考してもらったらいいのではないかと思います。

【中川会長】 結局は自立に向かうためには有料化できるだけの力量を鍛えてくださいということです。

団体番号19 生駒少年少女合唱団

【谷野委員】 会費が月3,000円となっておりますが、おけいこに行っているようなものになると、年に1回定期的にやっているふれあいコンサートであっても、発表会みたいな位置づけにならないかと思っています。慰問に行くのはいいと思いますが、その辺の境目が難しいと思いました。

講師はどなたがなされるのでしょうか、また、楽器は対象経費になるのですか。

【事務局】 楽器3万円と計上しているのは、1台3万円の楽器ということではなく、小さなものが積み重なって3万円ということです。事業アピールのところに書いていますが、朗読や音楽劇もされまでするので、音楽劇で使用するものとして楽器を計上しています。備品となるような、例えば打楽器、ピアノなどはないと確認しております。

講師についてですが、講師5名というのは、合唱の先生、ピアノの先生と聞いております。

【中川会長】 小道具材料15万というのは何でしょうか。

【事務局】 音楽劇をする際、小道具を作る材料費です。また、この制度では衣装を買うことはでき

ませんので、衣装は自分たちで買って、少しリボンをつけたりするということを聞いています。

【谷野委員】 会費3,000円というのは、合唱団に入るために3,000円要るということですね。

【事務局】 そうです。もちろん事業経費には計上していませんが、音楽劇で一旦作ったものを保管するのに、レンタルスペースを借りたり、その他団体運営費が発生しているようですので、それで賄っていると聞いています。

団体番号20 ボランティアグループ満点星

【中川会長】 自立に向けた設計は要ると思います。

【事務局】 昨年度分の交付確定のときに、安否確認の活動についての記録をいう話がこの会議で出ておまして、それを団体の方に伝え、今年度については個々の利用者のフェイスシートを作り、安否確認、どのような様子だったかというのを記録することをシステム化するということで事業の実施を図られています。

団体番号21 生駒ロータリークラブ

【中川会長】 ロータリークラブがすることなので、100%自費で実施してほしいと思いました。

【上田委員】 違和感がありました。

【谷野委員】 私も違和感がありました。

【中川会長】 ロータリーが補助金をもらってどうするのかという気がします。それよりも、この事業に登録されることを誇りたいということなのではないでしょうか。

【事務局】 この制度の登録団体になれば、7月の広報紙の発行のあわせ、団体紹介や事業紹介、選抜届出用紙をまとめた冊子を作成し、市内各世帯に配布しますが、それで紹介されると、参加者も増えるし、自分たちの活動のPRにもなるので申請をしたということでした。

この事業は、9月23日のお彼岸の万燈会当日に、宝山寺参道に灯りをつなぐとともに、参道を活用したイベントを行うものです。参道部分については、地元自治会や商工会議所が主となってされているようですが、生駒駅から参道に行くまでは何もなく寂しいので、そこも活性化したいということで、ロータリークラブが主体となり事業を実施される予定です。

【中川会長】 地域活性化という点では公益性はありますね。この制度から積極的に外す理由も見当たりません。

団体番号23 特定非営利活動法人 エコライフ生駒

【事務局】 収入項目に、県の地域貢献活動助成事業の申請助成金を計上しています。

【上田委員】 まだ募集していないので、予定であるということです。

この団体は過去に一度されています。今年は可能です。収支予算書は県分で25万円とされていますが、支援対象経費が42万4,000円としますと、その半分しか出せませんので、21万2,000円になりますので、変動してくる可能性があります。

【事務局】 マイサポいこまでは複数の補助金、助成金を収入として計上できます。しかしそれぞれの補助金にはそれぞれの要件があります。マイサポいこまの場合は市内で実施する事業という要件を定めています。当初の計画では、県の助成金を使うので地域の小学校ということで提案をされておられました。ただ、それではマイサポいこまの補助金の対象の事業要件から外れるという説明を行い、事業内容は生駒市内での小学校8校という事業提案になっております。

複数の補助金が入れば1つのお金としてまとめ、決算の段階で分ければいいという、団体の勘違いがありましたので、それぞれの補助金には使い方が定められているので、両方申請するのであるのならば、別の事業立てにしてくださいと伝え、最終的に生駒市内の小学校8校でやりますという案になっています。

【中川会長】 奈良県地域貢献活動助成事業の金額は変わってくるということでしょうか。

【上田委員】 まだ、募集も申請も受け付けていないので、決定金額は分かりません。

団体番号24 生駒精神障害者後援会（ひだまり後援会）

【上田委員】 市民啓発イベント「トーク&ライブ開催」という事業ですが、ライブは何のために必要なかということ、例えば、バイオリンとピアノの演者の方が、精神障がい克服された方であるのかとかいうかわりがあればいいとは思いましたが、その辺りが明確でないので、少し具体性はないかという気がしました。

【事務局】 本年度の演者の方の選考はまだしてないですが、この団体は年に2回、学習会、市民講座を開催しており、昨年度はこの市民講座の講師をされた方がライブを担当されたということは聞いています。選考基準の確認はしていません。

【中川会長】 精神障がいの方が対象となっているのですね。

【仲川副会長】 なので、ライブとかコンサートに行きにくいと思われます。この団体は、長い間活動されている団体で、すごく頑張っている団体だと思います。

団体番号25 生駒市日中友好協会

【仲川副会長】 この団体も長い間活動されていると思いますが、今回も春節の集いとして、楽器演奏、踊りと中華料理と文化紹介ということで、恒例行事になっていると思いますが、仲間うち50人でやっているように見え、有効性に少し疑問をもちました。もう少し発展的なもの、中国との関係を民レベルで友好にしたいという思いがあればと思いました。

【事務局】 長年実施している事業ですが、2年前までは地域の自治会の自治会館を使っていたのを、昨年度は中央公民館の小ホールで実施し、今年度はコミュニティセンターということで、会場を広くして市民の方にもたくさん来ていただけるようにということで計画されています。

【仲川副会長】 何人ぐらい来られるのかが書いていないので、市民の方や留学生が年々増えていくとか何か成果が余り見えてこないです。

【事務局】 参加者は増えているようで、昨年中央公民館小ホールで実施した際は110名と聞いています。人数が増えて収まらなくなったので、少し大きいコミュニティセンターを借りて実施するという計画です。

【仲川副会長】 そしたら、参加料500円×50人で25,000円、祝儀・寄附15,000円合計40,000円は増えるか知れませんね。

【事務局】 実際はもう少し増えるかもしれないです。

【仲川副会長】 全員から参加費は取られているのですか。

【事務局】 全員からではないようです。一般で来られる方のみ参加料ということです。留学生については参加料をいただいてないと聞いています。

【上田委員】 23年度もこれと同じ事業でしたか。

【事務局】 23年度は別事業で、写真や特産物による淮安市の紹介をされました。

【中川会長】 参加者も増えているということですのでいいのではないかと思います。

団体番号26 福祉団体「生駒希望の会」

【事務局】 2カ月に1回、健康講座をされていますが、市民の公募をして、音楽療法というタイトルで実施しているのは年に1回です。ですので、昨年につき、2回目の実施をされるということです。通常は、健康講座として、難病患者の支援をしている方、専門職の方などが相談会をするというのが主たる内容になっていますが、今回は広く市民の方に呼びかけて、日ごろ、ひきこもりがちな難病患者の方、難病患者を介護しておられる方々が集まって音楽療法を体験しましょうという内容になっています。予算の主たる内容になっている楽器ですが、参加者の方が、当日、フロアで参加される楽器を計上されています。

【上田委員】 2回目ということですが、団体の備品としてはお持ちでないのでしょうか。

【事務局】 持っていません。

団体番号27 生駒の地域医療を育てる会

【中川会長】 上田委員から、昨年、決算でバスツアーは事業収入から除外している。このツアーの実費を明確にと指摘があります。

【事務局】 昨年度は、バスツアーの経費のうち、寺の拝観料と寺の駐車場料金についてを対象外経費としています。

団体番号28 いこまえんゆう会

【宮西委員】 一昨年度、昨年度は、市民の選択の結果は3万、4万で、支援金希望額に全然達していない状況です。それだけの支援しか集まらないのであれば、そういう計画を立てないか、逆に、本当はこれだけ欲しいから、今回はこれだけ頑張って集めたいという部分も見えないし、結局、自主財源で実施されていますよね。支援が集まらないのであれば、何かに特化して、その分の経費を出された方がいいのではないかと感じました。

【上田委員】 同じようなことですが、事業費が今年度はすごく大きくなっていて、それに見合う計画ができていのかどうかというのが不透明かと感じました。実際、支援も集まらないということになれば、それだけの自主財源の確保ができるかどうかということで、この審査会が了解した事業が実施されない可能性が非常に高いということで、実効性に疑問を持ちました。

【中川会長】 昨年の実績はどうでしたか。

【事務局】 昨年の決算額が48万3,516円でした。この点については、事前に団体から相談があり、前回までは実施のためにかかった経費を全て、会計に反映できていなかったということでした。今年度は、団体としても、きちんこの事業に係る予算、決算を行い、実施する規模は同じ内容で引き続き申請をしたいと。申請するからには、今までは届出に係る活動もしなかったが、今年はきちんとやっていきたいという意向を聞いています。

【上田委員】 規模は同じなのですか。

【事務局】 同じ規模です。

【中川会長】 協賛企業の企業訪問と書いてますが、協賛企業実績はあったでしょうか。

【事務局】 昨年度実施する際に周知ポスターを作成してましたが、そこに協賛企業等の名前は入っていました。金額としての決算書では36万円が協賛金として出ています。

団体番号29 特定非営利活動法人 子守（こまもり）

【上田委員】 前回、雨でできず、市の施設を予約しようとしたら抽選に外れ、その後、グラウンド確保ができず、事業ができなかった。その際に、このマイサポ事業に登録しているから、グラウンド確保に協力してくださいということがあり、どうかと思いました。今回も3月に実施を予定していて、実施するからにはグラウンドの予定もあるのかと思ったらそれもないということなので、昨年の教訓が生かされていないということで、実効性がないと思いました。

【事務局】 その点について確認しました。その中で、3月の大会実施が、時期的にも一番望ましい。昨年度のように抽選に漏れたために中止にすることがないように、昨年度よりも1カ月早く会場申し込みの決定を設けるということ聞いています。昨年度は実際に動き出したのは1月だったようです。今年は昨年動き出しよりも1カ月早く動いて抽選回数を増やす、また、抽選できなかった場合の対応についても考えるということです。事業を実施するというのを踏まえて計画をしています。

【中川会長】 この制度の登録団体になっているからグラウンドの確保は市が協力してくださいという考えはどうかのでしょうか。

【事務局】 審査会に対し、再度その旨を伝えるようにと団体の方からご意見がありました。

【中川会長】 審査会にそういうふうに協力してくださいということですか。それは筋違いです。登録団体になるかということは審査会で認めますが、だからといって優先順位を与えるなんていう話にはならない。どう考えてもそんな理屈はなりません。登録団体になることは認めます。そこから先は自由競争です、行政がなぜそのためにプライオリティを認めて協力しなければいけないのか。

【事務局】 例えば、この支援制度に申請しなければ団体は、冬にやる事業であれば秋に企画をして実施すればいいけれども、この制度に応募するとなると通常よりも半年以上は早く計画を立てなければなりません。そうなってくると、会場が決まっていなくて事業案を先に作らねばならない。そうすると、実施に向けてのプレッシャー、ハードルが高くなる。だから、この制度のタイムスケジュールに合わせるのであれば、会場の確保は、ある一定の担保が欲しいというのは、他の団体からも意見としてはあります。

【仲川副会長】 公的なところは、事前申請しても1カ月前ぐらいからしか予約できないでしょう。グラウンドはどうですか。

【事務局】 コミュニティセンターであれば市内非営利団体は4カ月前。ただ、スポーツ施設となると、設備的にも選択肢も少なくなってしまうし、競争も高くなるということもあります。

【中川会長】 市のスポーツ施設、文化施設で、登録団体が事業計画をするに当たり、抽選申し込みが来るのが想定されるので、その場合は一般団体よりも二、三カ月早く抽選に応じてあげてくださいということは可能でしょうか。

【上田委員】 そういうことはできないと思います。

【中川会長】 やはり自由競争ですね。この団体は事業の公益性があると認めただけのことであって、市役所の認定、お墨つき団体ですと言っているわけじゃないですね。それを市民の皆さんが届出をして、その結果補助金がもらえるわけですね。いわゆる公益財団法人みたいな扱いを要求されているような気がします。

【上田委員】 自分たちが行いたい事業の公益性を認めてもらい、市民の届出を受ける団体になりましたというだけのことです。それが全てであって、市から場所の提供を受けられるとかには全然つながらない問題です。

【中川会長】 それをもしすれば、特定の団体に対する便益供与になりますよね。

【上田委員】 しかも、補助金交付予定団体が先に場所をとるということになってしまい、補助金なしで、自分たちの力だけで頑張っている団体を阻害してしまいます。

【中川会長】 余計に差をつけることになりますね。

【上田委員】 それはしてはいけないことです。

【仲川副会長】 でも、奈良文化会館は半年前に予約できます。同じ公共施設で、どうしてその辺の差があるのか。借りる方はよく分からないです。

【上田委員】 そのあたりの差はあると思います。館の性質的なもの、奈良文化会館の場合、大きな国際大会、全国大会的なものを開く可能性が高い。そうすると、計画段階が長いので早くから押さえることができるようにしています。小さな施設であれば、計画段階も長くないだろうということで1カ月にしたり、館の性質によっては決めるものなので、全部が統一されているというものではありません。

いわゆる利用者の利便を図るための見直しをそれぞれの施設がされることは、生駒市で考えればいいと思いますが、この事業のためにということではないです。

【中川会長】 上田委員の御指摘は非常にすっきりした話です。補助金も何ももらわずに公益活動をやっている団体は市から支援をもらわずに頑張っている。反対に、補助金の支援枠を保証されている団体がさらに行政に便宜の供与を要求するというのは、格差拡大になり、一向に筋が通らないのではないかというのははっきりしています。

案件3 生駒市市民活動団体支援制度見直しについて

【中川会長】 全体を通じて色々意見をいただきましたが、基本的には同じ事業を継続して提案した場合どうするか、それに向けた事業予算の工夫というか、それを図っていく方向で収支予算の編成をしてほしいというのが今日の意見かと思います。

それから、鹿ノ台納涼祭と高山盆まつりですが、制度初年度は地域全体の活性化、立ち上げという点で包括的に助成するという動機づけは認めてきたわけですが、2年目、3年目、あるいは3年を終了した後、どういうふうに維持していくかということを考えることは大事だと思います。何か新しい企画とかコンセプトがそこにあれば審査対象になりますよね。だけど、それをあえて積極的に誘導して教える必要はないと思いますが、フローで消えていくような経費が地域の活性化の起爆力となることは一旦は認めますが、2年目、3年目に向けて、いかなるストック形成をするかという戦略は欲しいです。無形のストックとして、みんなのきずなが深まったとか、人材が出てきましたとかにつながるような資金であれば、それでもいいと思っています。一番分かりやすいのは、ハードのストックなので最も分かりやすいですが、その次にソフトのストック、例えばパソコンのウェブのホームページを立ち上げる技術が身につきましたとか、そういうことを言ってもらえばどうでしょうか、これは個人的な意見ですが。

【上田委員】 会長がおっしゃったとおりかと思います。

祭りの中で新たな部分だけ取り上げてというのは難しい部分があるかと思いますが、新規性や発展性に重きを置いて、「去年から比べてこういう点を改善しました」「新たな取り組みとしてこういうものを行います」というのを示してもらい、全体を審査してオーケーをするということかと思いますが、ですので、先駆性であったり、団体内における事業の新規性、発展性というのを見ていけばいいのかという

感じを受けます。

全体的には、今年度については認めていく方向でいいのかと思います。

【宮西委員】 祭りについてですが、初年度に、市民自治の関連で、公益性と認めるからということ で高山盆祭りがオーケーになり、その後、鹿ノ台納涼祭がオーケーになりました。そこからまた次の、の祭りをもとに地域が交流され、そこからリーダー的な人が出てきて、市民自治協議会のような組織づくりに発展していったらいいという思いもあったのかと思います。そうなっていったら、祭りだけでなく、そこで培った人材、また新たな地域活動に発展していくように、すぐいきなりするのは無理だと思いますが、そういう集まりの機会ができたかというのであれば、また評価できるのでないかと思いました。

【仲川副会長】 有効性などに疑問があるものは、来年度に申請があったときにどうするのか。3年を区切りとする、1年置けば再申請できるとか、そういうルールを作るか作らないのかというのと、今回登録申請出されたある団体の人が、「毎年、どうか分からないのかと思ったら3年は出るらしい、それを聞いたから今回申請した」と言っていました。もう1つは、ほかと違うのは、やっぱりそれをよしとして応援している市民が、一定の権利を持って届出するわけですね。みんなが応援していることなのになぜだめなのかと。審査会で審査して、公益性等がないものは外さなければなりません、市民が「祭りは続けたい、だから入れる」ということでされてきています。それと宮西委員がおっしゃったように、この事業の目的は、個々のイベントを継続していくものではなく、生駒市をもっと活性化するとか、市民が自立するとか、そういうものを目指すものということですをはっきりと目的化してスタートしているか、あるいは市民が思っているか、主催者が思っているかというのをそろそろ整理していく必要もあるのではないかと。でないと、補助金を交付してもらって、それをいつものお祭りを続けるために使い、それも3年間はオーケーという感覚があるのかなと。今年度に関しては、全部もいいとは思いますが。

【谷野委員】 全般的には、各団体とも本当に頑張ってもらおうとされているというのは分かったのでよかったです。少し話がずれてしまうかも知れませんが、お年寄りや子どもたち、地域の方々がその地域で生活していくということの活性化をしていくためのスタートラインに立っている、登録団体を皆さんが応援していくというのはすごくいいことだと思いますが、それが根づいて、ずっとこういうことを続けてやっていこうという意識を持った方をどんどん育てていけるような、そういう場になればいいなと思っています。

【中田委員】 なかなか難しい部分はあると思うのですが、祭りについては、一旦見直す時期にきているのかと。というのは、原点に戻るといえるのか、この制度についての意識がまだ定着していない中、それをどんどん認めていけば、さきほどの話のようなことも考えられるので、原点に戻り、この制度の趣旨をつけて返す。発展性の話がありましたが、祭りというのは1つの地域コミュニティですので、返すことによって、防犯問題等の問題提起はできるのかと。そこでまた新たに、それを母体に祭り以外のことも考えられるかもしれません。一旦見直したらどうかというのと、新たな視点で、ソーシャルビジネスの話が今後出てくる可能性もありますが、その分野方面にも啓発、情報を発信していったらいいのかと思います。

【中川会長】 中田委員がおっしゃったことも大事な視点で、これから、いわゆる地域コミュニティの活動に対しても目を開く必要があるのと違うのかということの裏返しだと思います。「祭りをしたらお金が出る」と誘導してしまうと、本来の意味での総合型の市民自治協議会ができていく方に、逆に水を差す可能性があります。だから、例えば、地域でまちづくり計画を作ろう、防犯計画を作ろう、地域見守りネットを作ろうとかいう動きにも支援が行われてもいいと思います。

特定非営利活動促進法に20分野ありますが、いわゆるアソシエーション型NPO活動の典型的なものです。これを重複してやる活動はたくさんあります。地域安全活動、保健、医療又は福祉の増進を図る活動は、コミュニティ系の活動になってきます。そういうものとNPO系の活動と、双方が両輪になり、マイサポいこまが活用される方へ発展していくべきでないかと思います。

また、年次に「今年度の集中テーマは〇〇です」というように、それに対して応じてくれる団体の枠を特別に、例えば東日本大震災支援のための市民活動に関しては5団体分の枠をとりましたとかがあってもいいと思います。毎年、生駒市にとって、今、非常に大事だというテーマを、この審査会で選んで、それを提示したら、市民の方も「こういうことを期待している」と見えてくると思います。

【仲川副会長】 お祭りになぜ引かかるかという、地域限定的だからだと思います。ネットワークをどれぐらい協働型にできているかという視点も少しと入れるとか。

【中川会長】 中田委員と上田委員のおっしゃっている視点とを兼ね合わせると、お祭りをしたことによって、例えば「見守りネットワークにつながっていくような人間関係がどれだけ形成できた？」とか、あるいは「ひとり暮らしのお年寄りをどれだけ参加しましたか？」とか、そういう立体的な成果が出てくるような活動をしてほしいです。祭りをしたら、それで懇親を深めたからよかったではいけない。祭りは手段であって目的ではないということも言ってもいいのかなと思います。

【谷野委員】 その地域だけでなく、広い地域で、外部から来られる企画とか、老人ホームのお年寄りを招待するなど、そういうのがあってもいいのでないかと思います。

【中川会長】 先ほど団体から3年間という話がでてきましたが、どこにも書いていないですね。

【事務局】 市の補助金の交付の考え方に、3年で見直しなさいという方針があります。おそらくそういう考え方が、市民の皆さんに広まっているのかも知れません。

【中川会長】 それで3年と言っているのかもしれないですね。でも条例で運用しているので、その制約はなく、登録申請が認められたら毎年いけるわけですね。

【事務局】 今の制度ではそういうことです。

【中川会長】 ですが、中田委員がおっしゃるように、方針は変わり、去年はオーケーでも今年はだめというのは、あってもいいのかなと思います。

【仲川副会長】 全般的に1日のイベントが多いです。今はエコロジカルなやり方というのに、すごく気を使っています。たくさん消費するので、ごみはどうしているとか。その成果に、このイベント以外に上がった成果は何かとか、どれぐらいエコに配慮したとか、何か違うアウトカムを出したらいいのでないかと思いました。

【事務局】 6月30日に千葉県八千代市で、この制度に関する実務担当者会議とシンポジウムが開催されますが、その際に、他自治体もいろいろ課題を持っていると思いますので、それぞれの取り組みの中で、解決に向けてヒントがあれば、お示しさせていただき、また検討いただけたらと思います。

— 了 —